追悼文

# 金子隆芳先生の思い出

## In memory of Prof. Kaneko

坂田 勝亮（女子美術大学）

6月末から7月半ばにかけての海外出張から戻ると，金子隆芳先生の訃報というたいへん悲しい知らせが待っていました．

多くの方がご存知の通り，金子先生は色彩心理学という学問分野の創始者ともいえる方でした．僕がこの世界に入ったばかりでまだ右も左もわからない頃，幸運にも金子先生と印東太郎先生という二人の巨人にお教えいただく機会がありました．いずれも学部生時代にご指導いただいた先生の先生ということもあり，とても可愛がっていただきました．とくに金子先生は僕の勤めていた日本色彩研究所にたびたび足を運ばれていましたのでお会いする機会も多く，その際には僕の間違えを丁寧にご解説くださり，誤りを修正していただきました．心から感謝申し上げています．

先生は東京文理科大学をご卒業ののち，米ミズーリ大学で修士の学位を，さらに東京教育大学に戻られて博士の学位を取られました．その後は大学に残られ，東京文理大，東京教育大，筑波大と後進のご指導にあたられました．その間，多くの著書，多くの訳書を御執筆になられ，文章を通してもこの世界の啓蒙にご尽力下さりました．先生のお立場は生理学的エビデンスを通して知覚のメカニズムを解明することにあり，当時ゲシュタルト心理学後に台頭してきた認知心理学とは一線を画すものでした．学位を取られてすぐにソコーロフの「知覚と条件反射」の邦訳に携わられ，アービッブの「The metaphorical brain」（邦題：脳－思考と行動の源をさぐる），ワッセルマンの「Neurobiological theory of psychological phenomena」（同：分子生物学からみた神経心理学）の邦訳など，色彩心理学が現在の brain science, visual neuroscience につながる道を先頭に立って切り開いてこられました．そして「インテリジェント・アイ」，「現代心理学要説」を通して視覚心理学の面白さを伝えるとともに，色彩心理学を志す者への入門書として「色の科学」，「色彩の科学」，「色彩の心理学」というこの世界の不朽の名著を記されることにより，一般の読者に対するこの分野の紹介にも取り組まれました．このような多くの教育・研究の御業績から日本心理学会理事長，日本色彩学会会長を務められ，2019年の秋の叙勲では瑞宝中綬章を受章され，このたび正四位に叙されたそうです．

先生は僕と同じ2色型の色覚特性を有することから，いろいろとご指導いただく機会がありました．僕が研究生活を始めた当初，色の見えに悩んでいたときも「坂田さん，僕らの色の見えは劣っているものではなく特別なものなのだから，もっと強く主張してよいのですよ」とおっしゃってくださいました．当時は現在のように2色型，3色型という「色覚多様性」の考え方はまだなく，「色覚異常」「色盲・色弱」といった概念が色濃く残っていた時勢でした．このとき僕は先生をとても勇敢な方だと思い，たいへん心強かったことを憶えています．その後先生は「日本色覚差別撤廃の会」の会長を勤められ，僕に会報執筆の機会を与えてくださいました．原稿を丁寧にお読みいただき，細かく修正していただいたことに深く感銘したことを今でも思い出します．

その後も多くの機会にお心遣いをいただき，僕が通産省の指示で表色系の国際委員会に参加することになったときには，国内委員会の委員長をお務めいただき，委員会の活動記録を学会誌に報告する機会をくださいました．また職場を大学に替える際にはご紹介，ご推薦をいただきました．学会の読書会や大会で直接お会いするときだけではなく，お電話で「あれを読んだけど，あの部分はね・・・」とお教えいただくことも度々でした．多くのご指導をいただき，毎年盆暮れのご挨拶に対しては丁寧なお葉書を頂戴していたのですが，昨年の暮れには奥様から代筆のお葉書を頂戴し，案じていたときでした．

これからも先生の思いを継いで，精進したいと思います．心よりご冥福をお祈りします．